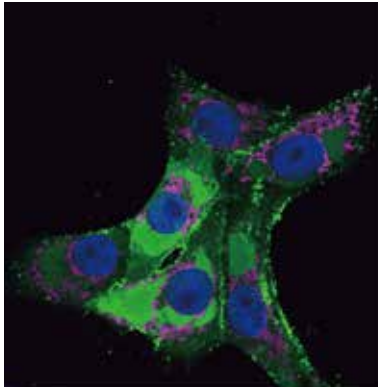


(P1の続き)



共に、ウイルス侵入を阻害する新規治療法の開発に取り組んできました。その結果として、薬剤候補となる化合物の同定や、中和抗体の作用機序を解明するなどの研究成果が得られています。

同様の技術を用いて、ウイルス粒子形成機構の解明にも取り組んでいます。最近では、BSL-2でウイルス感染を再現できるウイルス様粒子を活用して、エボラウイルスが感染する際に重要な役割を担うスパイクタンパク質の感染細胞での挙動をリアルタイムで追跡できる系を開発しました。この研究を進展することで、ウイルス粒子にスパイクタンパク質が取り込まれるメカニズムが解明されることが期待されます。さらにこのプロセスを

標的とした新規治療薬の創出に繋がることを期待されます。

研究・教育活動を進める上で、私が最も大事にしていることは、私たちの研究成果が将来的に感染症制御に貢献し得るかという社会的な使命を常に意識することに加えて、知的好奇心を大いに刺激する、ウイルス学の根幹を成すような現象の解明を目指すことです。

現在、高度感染症研究センターでは、国内初の研究開発と人材育成を主目的としたスーツ型BSL-4施設の本格稼働に向けて、準備を進めています。稼働後は、野生型ウイルスを用いて、現在取り組んでいる研究開発を進展させること、さらには、将来グローバルに活躍できるウイルス研究者の育成に力を注ぐことで、ウイルス研究の発展、そして感染症制御に貢献できるよう努めていきたいと考えています。

## 市民公開講座の開催について（要事前申込）

高度感染症研究センターでは、次のとおり市民公開講座を開催します。

講 師：長崎大学高度感染症研究センター 津田祥美 准教授

演 題：人獣共通感染症 - ヒトと動物とウイルスと -

日 時：令和5年3月18日（土）14:00～15:30

開催方式：オンライン（Zoom）及び会場（長崎大学坂本キャンパス）  
事前申込みが必要です。

その他：申込方法等は、センターホームページ

（<https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp>）をご覧ください。



◀市民公開講座  
申込サイトは  
こちら

地球上にはたくさんのウイルスが存在します。その中の少しのウイルスは人に病気を引き起こすことが知られています。また、人にも動物にも感染して、病気の原因になるウイルスが存在します。近年問題となっているコロナウイルスやインフルエンザウイルス、BSL-4 施設でしか扱うことができないエボラウイルスやラッサウイルスのような高病原性のものも含まれます。これらが引き起こすのが人獣共通感染症と言われるものです。この講座では、人獣共通感染症とはどのようなものなのか、どのような対策、研究が必要となるのかなど、講師の経験や研究などを交えながら解説します。



**お問合せ先** ご意見・お問い合わせはこちらまでお気軽にご連絡ください。

**長崎大学高度感染症研究センター**

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号

**フリーダイヤル** 0120-095-819

より詳しくお知りになりたい場合は、ホームページをご覧ください。

**ファックス** 095-800-4301

**ホームページアドレス** <https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp>

